

創刊110周年記念

# 誇れるふるさと

## 24地区リレー

〈vol.5〉

### 〈東岐波④ 散策マップ〉

東岐波の地形は東西に約4・66キロ、南北に約5・22キロで、海岸線はトラスがほえているように見える。その「下あご」部分に位置するのが「丸尾」。かつては何もない海浜地帯だったが、1680年に、萩藩の命によって港が築かれ、その歴史が始まったとされる。港町としての特徴を持った史跡を巡る約3キロのコースを東岐波郷土誌研究会の森昌幸会長らと共に歩いた。



### 豊漁願う社も

旧東岐波漁協跡を活用した総合型地域スポーツクラブ・Goppoええぞなクラブハウス裏の広場(①)が出発点。奥に見える丸尾漁港(②)は、幕府の公用や朝鮮使節の船が寄港する重要な港に

## 江戸時代から続く丸尾港、ぐるりと

旧東岐波漁協跡を活用もなっていた。開港から約40年間は漁業が特に盛んで、その頃から豊漁や海上安全を願う「えびす信仰」が広まった。1784年にほららを建立、1981年に現在の恵比寿神社(③)に移設した。毎年旧暦の6月17日には「十七夜管弦祭」を実施。同神社で神事を行い、近年まではちょうちんを飾った管弦船に地元住民が乗り込み、太鼓や笛で「しやぎり」を演奏しながら港内を回っていた。さらに東へ行くと、長さ219メートルの丸尾港埠頭(④)に突き当たる。萩藩は最初に波止場(防波堤)建設に着手し、その作業をしていた農民が住み着いたのが始まりという。台風のために破損と修理を繰り返した。1828年に大改築された姿が現存。突端にはコンクリート製の白い灯台があるが、35年に建設された当初は木製の灯籠堂だった。初は木製の灯籠堂だったが、台風で先端4メートルだが、台風で先端4メートルが倒壊した。

と続く道沿いには網の浦海岸(⑤)が広がる。沖田川橋を渡った直後の角を右折すると、山藤瓦工場跡(⑥)。東岐波南部の洪積台地には良質の粘土があり、瓦やれんがを作る窯場が点在していた。しかし、昭和40年代(1965〜75年)までにすべて廃業。山藤左官にすべて廃業。山藤左官店が築造した煙突はその名残だ。本来の高さは10

同研究会には、紹介し切れないほどの史跡を案内してもらった。東岐波は広く、歴史的スポットであふれている。参考文献として活用した地区コミュニティー推進協議会発行「東岐波ふれあい散策マップ」を手に、普段は通らない細道も歩いてみては。

次回は二俣瀬地区。8月16日スタート。